

各職員に転送または、配布をお願いします。

目次

[最新情報]

市場化テスト

[募集します！]

H 1 7 政策課題共同研究テーマ募集 3 月 4 日（金）締切
e シンキング投稿募集

[政策研究の紹介]

「自治体における人材開発の新たな展開（仮称）」について研究しています。
研究報告書の紹介

[私の選んだこの 1 冊]

「頭がいい人、悪い人の話し方」

[みてきたゾウ・つたえるゾウ！！]

第 3 回すてっぷあっぷ講座『社会資本マネジメントを考える』
自治大学校『研修専門課程』
連続講座『自治体改革第 4 講、これからの市町村』

[最新情報]

市場化テスト

皆さん「市場化テスト」という言葉を聞いたことがありますか？

「市場化テスト」は「官民競争入札」等ともいわれ、「公共サービスの提供について、官民が対等な立場で競争入札をおこない、価格・質の両面で優れた主体が落札し、そのサービスを提供する制度」です。今までの PFI やアウトソーシング等と違い、官が民との競争に直接さらされること、また、単に官の仕事を民に任せるというのではなく最終的に優れた民または官が仕事の担い手になることが大きな特徴です。

今回の首相施政方針演説によると、平成17年度にはハローワークの中高年向け再就職支援、社会保険庁の保険料未納者に対する督促や年金の電話相談などを対象として「市場化テスト」を開始するとともに、本格的導入に向けた検討を進めることになっています。地方自治体も一度仕事の棚卸を行い「市場化テスト」について対象となる業務の検討や実施手順等を研究する時期に来ているのではないのでしょうか。

[募集します！]

H17 政策課題共同研究テーマ募集 3月4日(金)締切

彩の国さいたま人づくり広域連合では、自治体が直面する共通課題に対応するため、県や市町村等の職員が、約1年間をかけて調査研究を行う「政策課題共同研究」を行っています。

平成17年度は、構成団体の提案による研究を2本、職員の提案による研究を1本予定しています。

研究したいテーマの応募をお待ちしています。

http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/bosyu/t_bosyu.htm

e シンキング投稿募集

e シンキングでは、自発的研究グループ等の研究紹介、講演会等の案内・レポート、研究誌等の発行、政策関係の書籍レビューなど、政策情報に関する投稿をお待ちしています。

「これは、e シンキングの記事になるかな」ということがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

E-Mail: seisaku03@hitozukuri.or.jp

[政策研究の紹介]

「自治体における人材開発の新たな展開(仮称)」について研究しています。

「現在の各団体の人材開発は、変革の時代に求められる人材を育成する内容となっているか？」というのがこの研究の発端です。自治人材開発センターで実施している集合研修も重要な人材開発方策の一つであり、いわば自らの仕事の点検を行政課題研究のテーマに据えました。

この行政課題研究とは、先号までに御紹介した政策課題共同研究が構成団体職員によって行われるのに対して、こちらは政策研究部員が中心となって、その時々行政課題について調査研究に取り組むものです。

新たな取り組みを始めている自治体や民間企業に調査を行った結果、集合研修

だけにとどまらず、評価、配置、昇任、研修等の全ての人事制度を総合的に活用し、人材開発に取り組んでいる様子が明らかになってきました。まず、組織が職員に求める人材像や能力をきちんと示し、職員の能力開発への意欲を引き出しています。そしてその努力を評価し、異動や昇任に反映させているのです。こうなると集合研修も主体的に活用されるようになるとともに、研修所もその意欲に十分応えられる内容のものを用意する必要が出てきます。

年度末には報告書として、これらについてまとめる予定ですので御期待ください。(M)

研究報告書の紹介

『自治体職員のためのNPO読本』(H13)

自治体職員がNPOや協働について学べるように、基礎知識や調査結果、先進事例などを盛り込んでいます。NPOに関する職員研修などの参考資料として、ご活用ください。

http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/H13/H13sum_npo.htm

平成12年度～15年度の研究報告書については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/01kenkyu/kyodokenkyu.top.htm>

[私の選んだこの1冊]

頭がいい人、悪い人の話し方 樋口 裕一 著 / PHP新書

人は、周りの人からどう思われているか、気にしている。たとえそうでなくても、バカには思われたくないと思っている。できれば、知的に見られたいと考えている人も少なくないと思います。

しかし、現実には、話し方のせいで愚かに思われたり、さらには一緒に仕事をしたくなく思われたり、付き合いたくないように思われている人がかなり多く存在するのではないのでしょうか。

本書は、そういった愚かな話し方のサンプルを40種類紹介し、それを反面教師として話し方を考えることによって自分が愚かな話し方をしなくなることができたり、どうしたら愚かな話し方をしている人に気づかせられるかをテンポ良く語ったものです。

その「バカに見える話し方」の実例としては、「他人の権威を笠に着る」「根拠を言わずに決めつける」「知ったかぶりをする」「ケチばかりつける」「自分のことしか話さない」「優柔不断ではっきり言わない」などを挙げています。多くが、自分にしろ他人にしろ思い当たる例なのではないかと思います。そして、面白いのは、そのそれぞれについて、「周囲の人の対策」と「自覚するためのワンポイント」が書かれていることです。

仕事の技術は多くありますが、市民との対話にしろ、所属内の会話にしろ、

すべて人との関係が基本です。アカウンタビリティ - の必要性についてよく言われますが、様々な人がいることを念頭に置いて、政策を考え説明しながら実行していくことが、その第1歩ではないかと言うことを改めて感じさせられました。

本書を読んだとしても、頭がいい人の話し方ができるとは限らない。しかし、少なくとも「バカに見える話し方」はしないように出来るのではないだろうか。筆者の言うように、表面的に愚かに見えないように注意するうちに、少なくとも自分の意図を的確に伝えられるようになるのではないのでしょうか。(とほほ)

[みてきたゾウ・つたえるゾウ!!]

第3回すてっぷあっぷ講座『社会資本マネジメントを考える』

1月31日、自治人材開発センター講堂で開催した、第3回すてっぷあっぷ講座『社会資本マネジメントを考える』について報告します。

社会資本マネジメントとは、道路や公園、下水道、公営賃貸住宅などの社会資本をどう管理・運用していくかということです。今までの社会資本整備は、インフラの絶対量が不足していた時代に効率よく整備を進めることを主たる目的としていたため、維持管理を効率的に行うという考え方が不足していました。しかし社会資本のストックは年々増加し、老朽化も進んでいます。限られた資源(人材、予算など)のもと、どうしたら効率的に維持管理を行い、その資産価値を高められるかということは大きな課題となっています。

今回の講座ではお二人の講師に御講演いただき、政策課題共同研究チームの中間報告を行いました。

東京大学大学院工学系研究科 小澤一雅教授からは「社会資本マネジメントについて」と題して、社会資本のマネジメントの現状・課題から、社会資本の運用・管理に必要な費用を小さく抑え、質の高いサービスを提供することにより資産価値を最大化するための社会資本アセットマネジメントについて、主に橋りょうを例に取りながらお話しいただきました。

次に東京都建設局道路管理部保全課 高木千太郎課長補佐から「東京都道路アセットマネジメントの導入と課題」と題して、東京都管理の道路アセットマネジメントシステムについて、維持管理のシステム化のみにとどまらない、NPMの考え方を導入した具体的な事例についてお話しいただきました。

最後に政策課題共同研究「健全な道路を維持するために」研究チームの中間報告を行い、小澤、高木両講師から講評をいただきました。

開催前には参加者数に多少の不安を覚えていたのですが、会場定員いっぱいの123名の参加者と予定時間を超えた熱心な質疑に、社会資本マネジメントに対する高い関心を実感しました。(にゃ)

自治大学校研修専門課程

自治大学校では、『第1部課程』など同程度の職位の方を対象とした研修のほか、『研修専門課程』や『税務専門課程』など同じ職種の方を対象とした研修も実施しています。今回は、1月12日から25日まで行われた『研修専門課程』について報告します。

この研修は、名前のとおり「研修担当職員として必要な知識や技能を習得すること」を目的として実施しています。そのため、研修内容は、「自治研修論」(千葉大大森教授)、「分権時代における人材育成」(横浜国立大学小池教授)などの全般的な講義から、「政策研修の進め方」(政策研究大学院大学横道教授)、「政策法務と人材育成」(中央大学磯崎教授)などの職員に求められる能力とその研修方法という講義、「研修評価・効果測定」(産能大浅野先生)などの効果的な研修運営方法の講義・演習といったものでした。自治大の研修としては2週間という短い期間でしたが、非常に有意義な内容でした。

また、今回の研修生は19名という少数でしたが、参加者は、北は北海道から南は沖縄県まで、道・県、政令市や人口十万人程度の市まで、職位も主幹級から主事級までという専門課程ならではのメンバーであり、研修カリキュラムに設けられた情報交換の時間はもとより、連日深夜まで自主的な交流を深め、こちらも非常に有意義なものでした。

自治大学校での2週間は、研修担当者として必要な内容を学ばせていただくと共に、研修の間、共に寮で生活することにより多くの研修生の方々と交流することができ、非常に貴重な体験をすることができました。現在ではこの研修での人的ネットワークを生かし、毎日、メーリングリストで情報交換を行っています。(よっすい)

連続講座『自治体改革第4講、これからの市町村』

～自己決定自己責任時代から考える～

連続講座「自治体改革」は、各分野の専門家、大学教授等を招き全4講の連続講座で自治体改革への取組みを考える、市町村職員対象の研修である。

その最終講、第4講では、まず中央大学佐々木信夫教授による基調講演、そして後半は佐々木教授をコーディネーターに、さらに改革派で知られる杉並区の山田宏区長と、今や全国に広がる「道の駅」の提唱者、NPO法人地域交流センター代表の田中栄治氏、自治・分権ジャーナリストの会所属の日経新聞論説委員の松本克夫氏をパネリストに迎え、パネルディスカッションが行われた。

基調講演で佐々木教授は、本来自治の三大原則である自己での決定、責任、負担の原則が形骸化し、中央依存が進んだことを指摘し、合併や組織改革を通じて、従来の「事業官庁」から、「政策官庁」へと自治体が脱皮することの必要性を説いた。

パネルディスカッションでは、行政の実践者としての杉並区長の話が特に印象に残った。区長は、今の経済構造の変化は小売店の変化から始まったことを力説し、行政の小売店である市町村が変われば、それに引っ張られるように都道府県や国が変わり、財源・権限の移譲が行われると語った。田中氏が教育は地方自治の原点であり、教育改革が必要と話すと、区長は、杉並師範学校を設立して毎年30人を区独自で採用する計画を披露。松本氏が日本のビジネスマンは有能だが、市民としては無能だと住民自治の無力化を引き合いに出すと、区長は、住民主体の条例作りや行政推進を、住基ネット反対やレジ袋税を例に語った。

最後に区長は、公務員は「クビ無し、倒産無し」という環境の中、意識改革が難しい。まずは、意識改革が先決。国や県任せでない、また住民迎合ではない、正しいもの、良いものをプロの目で見極めサービスとして提供すべきと力強く語られたのが印象に残った。

21世紀の「自ら考え行動する自治体づくり」のために意識改革となる有意義な研修であった。(S.A)

[編集後記]

2月といえばバレンタインディ。お菓子屋さんの陰謀(?)という話もありますが、今やこの風潮に異を唱えるのは困難です。多数の支持があると大きな流れが生じます。翻って、地方分権はどうでしょう。中途半端に終わるのか、真に地方自治体が自立できる流れになるのかは、住民の皆さんの支持を得られるかどうかです。最終的には私たちがどれだけよい仕事をできるかにかかってくるのでしょうか。(河原塚)

[e シンキング]

ご意見・掲載希望

[政策研究の紹介] [私の選んだこの1冊] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記まで、御連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合

自治人材開発センター 政策研究担当（石田）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: seisaku03@hitozukuri.or.jp